Sun N1 Service Provisioning System ユーザーズガイドおよびリリースノート(WebSphere Plug-In 2.0)

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 819–4231–10
2005 年 9 月

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

U.S. Government Rights Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリョービイマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。 HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2 は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。©Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. ©Copyright OMRON SOFTWARE Co.,Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は日本郵政公社が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行なっています)。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド』に添付のものを使用しています。

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。 米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK のグラフィカル・ユーザーインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われないものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun N1 Service Provisioning System User's Guide for the WebSphere Plug-In 2.0

Part No: 819-2904–10

Revision A





051017@13215

目次

はじめに　**9**

1　WebSphere 2.0 プラグインの概要　**13**
WebSphere 2.0 プラグインの目的　13
WebSphere 2.0 プラグインに含まれるもの　13
WebSphere 2.0 プラグインを使用するための要件　14

2　WebSphere 2.0 プラグインのリリースノート　**17**
インストールに関する情報　17
追加のパッチが必要　17
インストール名が変更されている付属 `trade3.ear` を配備すると `NullPointer` 例外が発生する (6302253)　18
実行時の問題　18

3　WebSphere プラグインのインストールと構成　**19**
WebSphere プラグインの入手　19
Sun N1 Service Provisioning System への WebSphere プラグインの追加　20
▼ ブラウザインタフェースを使用して WebSphere プラグインをインポートする　20
▼ CLI を使用して WebSphere プラグインをインポートする　20
▼ WebSphere プラグインのマスターサーバーを構成する　21
アップグレード関連の注意事項　22
▼ 旧バージョンのコンポーネントにアクセスする　22

4 WebSphere 2.0 プラグインの使用法 25
WebSphere Application Server Version 5.1 環境の構成 25
プラグインの規定 25
全体的な前提条件 26
プロセスの概要 27
WebSphere インフラストラクチャーコンポーネントの作成 28
▼ スタンドアロン WebSphere アプリケーションサーバーをインストールする 28
▼ アプリケーションサーバーインスタンスを作成する 31
▼ 配備マネージャーをインストールする 33
▼ 配備マネージャーにノードを追加する 35
▼ WebSphere クラスタを作成する 36
▼ クラスタメンバーを追加する 37
WebSphere 2.0 環境の構成 39
▼ JDBC Provider コンポーネントを作成する 39
▼ JDBC Provider コンポーネントをインストールする 40
▼ データソースコンポーネントを作成する 41
▼ データソースコンポーネントをインストールする 42
▼ JVM コンポーネントを構成する 43
▼ JVM コンポーネントをインストールする 43
WebSphere 2.0 インフラストラクチャーコンポーネントの管理 44
▼ スタンドアロンシステムのアプリケーションサーバーを起動または停止する 45
▼ スタンドアロンシステムのアプリケーションサーバーをアンインストールする 45
▼ アプリケーションサーバーインスタンスを起動または停止する 46
▼ アプリケーションサーバーインスタンスをアンインストールする 47
▼ 配備マネージャーを起動または停止する 47
▼ 配備マネージャーをアンインストールする 48
▼ クラスタを起動または停止する 48
▼ クラスタをアンインストールする 49
▼ クラスタメンバーを削除する 49
WebSphere 2.0 で作業するときのコマンド行インタフェースの使用法 50
Sun N1 Service Provisioning System コマンド行インタフェースの使用法 50
WebSphere 5.1 の `wsadmin` スクリプトの使用法 51
▼ `wsadmin` スクリプトを実行する 51
WebSphere アプリケーションを配備するためのコンポーネントタイプの使用法 52
エンタープライズアプリケーション (EAR) コンポーネントタイプ 52
プラン 55

障害追跡　55
WebSphere 2.0 プラグインのアンインストール　56
▼ WebSphere 2.0 プラグインをアンインストールする　56

索引　**59**

表目次

表 4–1　共通のタスク名　26

はじめに

このマニュアルでは、Sun N1™ Service Provisioning System ソフトウェアを使用して、WebSphere 2.0 アプリケーションサーバー製品、アプリケーション、およびファイルを取得して配備する方法について説明します。

対象読者

このマニュアルの主な対象読者は、WebSphere 2.0 の機能を Sun N1 Service Provisioning System ソフトウェアに組み込もうとしているシステム管理者および Sun N1 Service Provisioning System ソフトウェアのオペレータです。このようなユーザーは、次のことに精通している必要があります。

- Sun N1 Service Provisioning System 製品
- UNIX® と Windows の一般的なコマンドとユーティリティー
- WebSphere 2.0 製品の一般的な概念と管理機能

お読みになる前に

まだ Sun N1 Service Provisioning System ソフトウェアに精通していないユーザーは、次のマニュアルをお読みください。

- 『Sun N1 Service Provisioning System 5.1 システム管理者ガイド』
- 『Sun N1 Service Provisioning System 5.1 オペレーションとプロビジョニングガイド』
- 『Sun N1 Service Provisioning System 5.1 リリースノート』

内容の紹介

第 1 章では、このプラグインソリューションの概要を述べます。

第 2 章では、WebSphere 2.0 プラグインの最新情報と既知の問題点について説明します。

第 3 章では、このプラグインをインストールして構成する方法について説明します。

第 4 章では、このプラグインを通してアプリケーションサーバー製品、アプリケーション、およびファイルを取得して配備する方法と、このプラグインが提供する具体的なコンポーネントタイプについて説明します。

第三者の関連 Web サイト

このマニュアル内で参照している第三者の URL は、追加の関連情報を提供します。

注 – このマニュアル内で引用する第三者の Web サイトの可用性について Sun は責任を負いません。Sun は、これらのサイトあるいはリソースに関する、あるいはこれらのサイト、リソースから利用可能であるコンテンツ、広告、製品、あるいは資料に関して一切の責任を負いません。こうしたサイトやリソース上で、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、製品、サービスを利用または信頼したことに伴って発生した (あるいは発生したと主張される) 実際の (あるいは主張される) 損害や損失についても、Sun は一切の責任を負いません。

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun のサービス	**URL**	内容
マニュアル	`http://jp.sun.com/documentation/`	PDF 文書および HTML 文書をダウンロードできます。

Sun のサービス	URL	内容
サポートおよびトレーニング	http://jp.sun.com/supportraining/	技術サポート、パッチのダウンロード、および Sun のトレーニングコース情報を提供します。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 **P–1** 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 system%
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	system% **su** password:
AaBbCc123	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm *filename* と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャー・ユーザーズガイド』を参照してください。
「 」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% **grep '^#define ** **XV_VERSION_STRING'**

コード例は次のように表示されます。

- C シェル

  machine_name% **command y|n** [*filename*]

- C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[ ] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

第 1 章

WebSphere 2.0 プラグインの概要

この章では、N1™ Grid Service Provisioning System を使用して WebSphere 2.0 アプリケーションをプロビジョニングするための一般的な情報について説明します。この章では、次の内容について説明します。

- 13 ページの「WebSphere 2.0 プラグインの目的」
- 13 ページの「WebSphere 2.0 プラグインに含まれるもの」
- 14 ページの「WebSphere 2.0 プラグインを使用するための要件」

WebSphere 2.0 プラグインの目的

Sun N1 Service Provisioning System ソフトウェアは、WebSphere 2.0 アプリケーションサーバー製品をサポートするための拡張機能を提供します。アプリケーションサーバー、配備マネージャー、およびクラスタを プロビジョニングソフトウェア でインストールすると、WebSphere 2.0 インフラストラクチャーをプロビジョニングできます。インストール後、アプリケーションサーバーを起動または停止することによって、WebSphere 2.0 環境を管理できます。以前インストールされていたアプリケーションも、取得して、企業全体に配備できます。

WebSphere 2.0 プラグインに含まれるもの

WebSphere プラグインには、WebSphere 2.0 アプリケーションサーバー製品と WebSphere に配備されたアプリケーションを構成およびインストールするためのいくつかのコンポーネントとプランが含まれます。

- 企業アプリケーション (EAR ファイル) をインストールするためのプラン
- WebSphere 2.0 インフラストラクチャーをサポートするためのコンポーネントとプラン
  - WebSphere スタンドアロンアプリケーションサーバー
  - WebSphere アプリケーションサーバーのインスタンス
  - WebSphere Network 配備マネージャー
  - WebSphere クラスタ
  - WebSphere クラスタメンバー
  - WebSphere セル
- WebSphere 2.0 アプリケーションサーバー上のアプリケーションを取得して配備するためのコンポーネントとプラン
- WebSphere 2.0 環境を構成するためのコンポーネントとプラン
  - データソース
  - JDBC プロバイダ
  - Java™ プラットフォーム用の仮想マシン (Java 仮想マシン、JVM™ マシン、または JVM™ ツールインタフェース)
- WebSphere 2.0 コマンドを プロビジョニングシステム の ブラウザインタフェースから実行するためのコンポーネントとプラン

WebSphere 2.0 プラグインを使用するための要件

WebSphere プラグインが WebSphere Application Server Version 5.1 をサポートするプラットフォームは次のとおりです。

- Solaris 8 (SPARC 版)
- Solaris 9 (SPARC 版)
- RedHat Linux AS 2.1
- RedHat Linux AS 3.0
- AIX 5.1 と 5.2

注 – WebSphere Application Server Version 5.1 は AIX 5.3 と互換性がありますが、N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアは AIX 5.3 をサポートしません。

WebSphere ソフトウェアを使用するための詳細な要件については、IBM のマニュアルを参照してください。ハードウェアとソフトウェアの要件についての詳細は、WebSphere Application Server の補足資料 (`http://www-306.ibm.com/software/webservers/appserv/doc/v51/prereqs/prereq51.html`)を参照してください。

第 2 章

WebSphere 2.0 プラグインのリリースノート

この章では、WebSphere 2.0 プラグインに関する最新ニュースと既知の問題について説明します。

この章では、次の項目について説明します。

- 17 ページの「インストールに関する情報」
- 18 ページの「実行時の問題」

インストールに関する情報

WebSphere 2.0 プラグインをインストールするときに発生することが判明している問題を次に示します。

追加のパッチが必要

WebSphere 2.0 プラグインを実行するには、パッチ 119655-01 を Sun N1 Service Provisioning System ソフトウェアにインストールする必要があります。このパッチをダウンロードするには、`http://sunsolve.sun.com` にアクセスしてください。

注 – パッチ 119655–01 をインストールしており、かつ、Windows 2000 プラグインを使用する予定がある場合は、さらに、パッチ 119656–01 をインストールする必要があります。

インストール名が変更されている付属 trade3.ear を配備すると NullPointer 例外が発生する (6302253)

インストール名が変更されている付属 trade3.ear を配備すると、NullPointer 例外が発生します。その場合、次のエラーメッセージが表示されます。

```
Error in deploying the application
```

回避策: installName 変数に .ear 拡張子が入っているかどうかを確認します。

実行時の問題

実行時に起きることが判明している問題はありません。

第 3 章

WebSphere プラグインのインストールと構成

この章では、WebSphere プラグインをインストールして構成する方法について説明します。この章では、次の内容について説明します。

- 19 ページの「WebSphere プラグインの入手」
- 20 ページの「Sun N1 Service Provisioning System への WebSphere プラグインの追加」

WebSphere プラグインの入手

IBM WebSphere アプリケーションサーバーソリューションは、Sun N1 Service Provisioning System ソフトウェアのプラグインとしてパッケージ化されています。プラグインは Java™ アーカイブ (JAR) ファイルにパッケージ化されています。WebSphere Application Server ソリューションのプラグインファイルは、Sun N1 Service Provisioning System Supplement CD または Sun Download Center から入手できます。

WebSphere プラグインは、2 つの異なる JAR ファイルからインポートして入手できます。状況に応じ、適切なファイルを選択してください。

- WebSphere プラグインを初めてインポートする場合は、`com.sun.was_2.0.jar` ファイルを入手してください。
- WebSphere プラグインの旧バージョンをすでにインポートしてある場合は、`com.sun.was_1.0_2.0.jar` ファイルを入手してください。

Sun N1 Service Provisioning System への WebSphere プラグインの追加

指定のプラグインを Sun N1 Service Provisioning System に通知するには、マスターサーバーにプラグインをインポートする必要があります。WebSphere プラグインの旧バージョンをすでにインポートしてある場合は、新しいプラグインにアップグレードする必要があります。

▼ ブラウザインタフェースを使用して WebSphere プラグインをインポートする

プラグインのインポートまたはアップグレードは、次の手順で行います。詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.1 システム管理者ガイド』の第 5 章「プラグインの管理」を参照してください。

手順

1. ブラウザインタフェースのメインウィンドウの「**Administrative**」セクションで、「**Plug-ins**」をクリックします。
2. 「**Plug-ins**」ページの「**Action**」列で、「**Import**」をクリックします。
3. **JAR** ファイルをダウンロードした場所に移動します。
   - WebSphere プラグインを初めてインポートする場合は、`com.sun.was_2.0.jar` ファイルを選択します。
   - WebSphere プラグインの旧バージョンをすでにインポートしてある場合は、`com.sun.was_1.0_2.0.jar` ファイルを選択します。
4. 「**Continue to Import**」ボタンをクリックします。
   インポートが正常に終了すると、プラグインの詳細ページが開いて、そのプラグインが提供するオブジェクトが表示されます。

▼ CLI を使用して WebSphere プラグインをインポートする

コマンド行を使用して、プラグインをインポートすることもできます。

手順

- **CLI** からプラグインファイルをインポートするには、次のように入力します。

```
% cr_cli -cmd plg.p.add -path plugin-filename -u username -p password
```

- WebSphere プラグインを初めてインポートする場合は、*plugin-filename* は `com.sun.was_2.0.jar` です。
- WebSphere プラグインの旧バージョンをすでにインポートしてある場合は、*plugin-filename* は `com.sun.was_1.0_2.0.jar` です。

▼ WebSphere プラグインのマスターサーバーを構成する

WebSphere プラグインを使用するには、プロビジョニングシステム の基本構成を少し変更して、アプリケーション間で通信できるようにし、プランを実行できる十分な時間を提供する必要があります。

手順

1. プラグインをインポートします。
   19 ページの「WebSphere プラグインの入手」を参照してください。
2. 次の **WebSphere 2.0** セッション変数を設定します。**`WS_DEFAULT_USER`** と **`WS_DEFAULT_PASSWORD`** です。
   これらの変数は、スタンドアロンアプリケーションサーバーのインストール時、配備マネージャーのインストール時、およびノードの統合 (フェデレーション) 時に使用されます。
3. プロビジョニングシステム のコマンド行インタフェース **(CLI)** を表示する仮想ホストを作成します。

   この仮想ホストを定義するには、次の属性を使用します。

   - ホスト: **`cliHost`**
   - ホストタイプ: **`com.sun.was#cliHT`**
   - `cliLoc`: CLI への絶対パス。
     たとえば、*InstallPath*`/cli/bin/cr_cli`
   - 親ホスト: マスターサーバー上にあるリモートエージェント。
4. マスターサーバーを実行しているマシンに **CLI** をインストールします。
5. マスターサーバーを実行しているマシンにリモートエージェントソフトウェアをインストールして起動します。
6. マスターサーバーの「**Host Edit**」ページに進んで、「**Include Remote Agent On This Physical Host**」オプションを選択します。
7. マスターサーバーの **`config.properties`** ファイルを変更します。
   `allowSessionIDOnHosts` を使用すると、このプラグインはコマンド行インタフェースとリモートエージェントインタフェースを通じてマスターサーバーと通信できます。

`defaultPlanTimeout` を使用すると、プランを実行できるデフォルトの時間を増やすことができます。この値の単位は秒です。この行は、デフォルトのプラン実行時間 30 分 (1800 秒) を増やす必要がある場合に追加します。この例では、100 分 (6000 秒) という値を使用します。

`pe.nonPlanExecNativeTimeout` 値の単位は秒です。この行は、execNative タイムアウトの時間を増やす必要がある場合に追加します。

```
pe.nonPlanExecNativeTimeout=2400
```

このファイルに次の行を追加します。

```
config.allowSessionIDOnHosts=masterserver
pe.defaultPlanTimeout=6000
```

`config.properties` ファイルのデフォルトの場所は、`/opt/SUNWn1sps/N1_Service_Provisioning_System_5.1/server/config` です。

8. マスターサーバーを再起動します。

アップグレード関連の注意事項

次に、アップグレード後に旧バージョンのコンポーネントを表示させる操作に関連した情報を示します。

▼ 旧バージョンのコンポーネントにアクセスする

新バージョンのプラグインにアップグレードすると、新しいバージョンのプラグインでインストールされたコンポーネントへのリンクが表示されるようにプラグインの「Common Tasks」ページが更新されます。この機能を使用すると、最新の機能と改善された機能を含むコンポーネントを簡単に確認できます。古い機能に依存するコンポーネントは「Common Tasks」ページにリンクされません。

以前にインストールしたコンポーネントが見つからない場合、そのコンポーネントは旧バージョンのプラグインから作成された可能性があります。

旧バージョンのコンポーネントの確認または作業を行うには、次の手順に従います。

手順

1. 「**Common Tasks**」ページで、該当するコンポーネント作業をクリックします。
「Component Detail」ページが表示されます。

2. 「**Component Details**」ページで、「**Version History**」をクリックします。
コンポーネントとバージョンの一覧が表示されます。

3. 該当するリンクをクリックします。

   a. コンポーネントによる作業を行うには、バージョン番号、または使用するコンポーネントに適用される詳細リンクをクリックします。

   b. コンポーネントがインストールされている場所を確認するには、「**Where Installed**」をクリックします。

第 4 章

WebSphere 2.0 プラグインの使用法

WebSphere 2.0 プラグインは、特定のプランとコンポーネントタイプをいくつも備えています。WebSphere 2.0 アプリケーションの使用に必要な機能を簡単に使用できます。この章では、次の内容について説明します。

- 25 ページの「WebSphere Application Server Version 5.1 環境の構成」
- 28 ページの「WebSphere インフラストラクチャーコンポーネントの作成」
- 39 ページの「WebSphere 2.0 環境の構成」
- 44 ページの「WebSphere 2.0 インフラストラクチャーコンポーネントの管理」
- 52 ページの「WebSphere アプリケーションを配備するためのコンポーネントタイプの使用法」
- 55 ページの「プラン」
- 55 ページの「障害追跡」

WebSphere Application Server Version 5.1 環境の構成

プラグインの規定

プロビジョニングシステム を使用すると、アプリケーションをプロビジョニングおよび管理できます。

プランとコンポーネントプロシージャー

WebSphere 2.0 プラグインは、タスクを実行するためのツールとして、プランとコンポーネントプロシージャーの両方を提供します。プランを使用することによって、使用する機能に直接リンクできます。コンポーネントプロシージャーを使用することによって、実行できるタスクの数が大幅に増えます。WebSphere プラグインとともに含まれるプランを使用して実行できるタスクはすべて、コンポーネントプロシージャーを使用して実行できます。

タスク名

WebSphere 2.0 プラグインは、タスクを次の 4 つのカテゴリに分類します。つまり、アプリケーションタスク、インフラストラクチャータスク、構成タスク、および高度なタスクです。これら 4 つのタスクカテゴリは、実行する必要があるタスクを記述するための同じ規約に従います。

表 **4–1** 共通のタスク名

タスク名	説明
View All	指定したフォルダ内にある特定のタイプのコンポーネントすべてにリンクします。
作成	コンポーネントの「Details」ページにリンクして、当該タイプの新しいコンポーネントをプロビジョニングシステム に追加できます。既存のアプリケーションサーバーからインポートするか、ファイルシステムを探すことによって、新しいコンポーネントを作成できます。
Start or Stop	コンポーネントの「Details」ページにリンクして、Start or Stop コンポーネントプロシージャーを実行できます。
Install、Uninstall、Remove、Join、Leave	記述した機能を生成するプランにリンクします。

全体的な前提条件

プロビジョニングシステム 内のすべてのタスクは、特定のアクセス権を必要とします。WebSphere 2.0 プラグイン内でタスクを実行するには、ユーザーは、当該コンポーネントが入っているフォルダに「Run Component Procedures」アクセス権を持つユーザーグループに属している必要があります。さらに、ユーザーは、当該コンポーネントを配備するホストセットに「Allow on Host Set」アクセス権を持っている必要があります。

アクセス権の詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.1 システム管理者ガイド』の第 3 章「アクセス許可を使用したアクセスの制御」を参照してください。

グループメンバーシップを更新する方法の詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.1 システム管理者ガイド』の「ユーザーのグループメンバーシップを変更する」を参照してください。

プロセスの概要

WebSphere 2.0 環境を プロビジョニングシステム 内で作成するプロセスは、この環境を プロビジョニングシステム なしで作成するプロセスに似ています。

1. WebSphere 2.0 プラグインをインポートします。

   20 ページの「Sun N1 Service Provisioning System への WebSphere プラグインの追加」を参照してください。

2. プロビジョニングシステム のマスターサーバーを構成します。

   21 ページの「WebSphere プラグインのマスターサーバーを構成する」を参照してください。

3. 次の WebSphere 2.0 セッション変数を設定します。`WS_DEFAULT_USER` と `WS_DEFAULT_PASSWORD` です。

   これらの変数は、スタンドアロンアプリケーションサーバーのインストール時、配備マネージャーのインストール時、およびノードの統合 (フェデレーション) 時に使用されます。

   『Sun N1 Service Provisioning System 5.1 プランとコンポーネントの開発者ガイド』の第 5 章「セッション変数」を参照してください。

4. すべてのホストを準備します。

   WebSphere 2.0 プラグインには新しいシステムサービスが含まれており、これらのサービスは プロビジョニングシステム 内のすべてのホストにプッシュアウトする必要があります。『Sun N1 Service Provisioning System 5.1 システム管理者ガイド』の「物理ホストの準備」を参照してください。

5. スタンドアロンの WebSphere アプリケーションサーバーを作成します。

   28 ページの「スタンドアロン WebSphere アプリケーションサーバーをインストールする」を参照してください。

6. 追加のアプリケーションサーバーインスタンスを作成します。

   31 ページの「アプリケーションサーバーインスタンスを作成する」を参照してください。

7. (任意) 配備マネージャーを作成します。

   33 ページの「配備マネージャーをインストールする」を参照してください。

8. 必要であれば、WebSphere アプリケーションサーバーごとに配備マネージャーを追加します。

   35 ページの「配備マネージャーにノードを追加する」を参照してください。

9. (任意) クラスタを作成して、クラスタメンバーをクラスタに追加します。

   36 ページの「WebSphere クラスタを作成する」と37 ページの「クラスタメンバーを追加する」を参照してください。

10. 必要であれば、アプリケーションのデータベースへの接続を構成します。

    a. JDBC Provider を構成します。

       39 ページの「JDBC Provider コンポーネントを作成する」を参照してください。

    b. データソースを構成します。

       41 ページの「データソースコンポーネントを作成する」を参照してください。

11. Java 仮想マシン (JVM) コンポーネントを構成します。

    43 ページの「JVM コンポーネントを構成する」を参照してください。

12. アプリケーションファイルを取得します。
13. ターゲットのアプリケーションサーバーまたはクラスタにアプリケーションを配備します。

    アプリケーションを配備するターゲットは、アプリケーションサーバーまたはクラスタのどちらでもかまいません。

    53 ページの「エンタープライスアプリケーションのインストール」を参照してください。

WebSphere インフラストラクチャーコンポーネントの作成

WebSphere アプリケーションサーバーにアプリケーションを配備するには、まず、プロビジョニングシステム を使用して WebSphere コンポーネントをインストールするか、既存の WebSphere 構成を取得する必要があります。

▼ スタンドアロン WebSphere アプリケーションサーバーをインストールする

アプリケーションにサービスを提供できるようにアプリケーションサーバーインスタンスを設定するには、まず、スタンドアロンアプリケーションサーバーをインストールする必要があります。1 台のスタンドアロンアプリケーションサーバーには、複数のアプリケーションサーバーインスタンスを格納できます。このスタンドアロンアプリケーションサーバーは単一のエンティティとして管理するか、配備マネージャーによって管理できます。アプリケーションサーバーについての情報はすべて、アプリケーションサーバーと (配備マネージャーを使用している場合は) 配備マネージャーの両方に格納されます。

コンポーネントをインストールして、新しいスタンドアロンアプリケーションサーバーを作成するときには、次の作業も必要になります。

- WebSphere 2.0 アプリケーションソフトウェアのインストール
- スタンドアロンアプリケーションサーバーの構成
- スタンドアロンアプリケーションサーバーの仮想ホストの作成
- アプリケーションサーバーインスタンスごとに、コンポーネントと仮想ホストを作成します。

この手順を使用すると、プロビジョニングシステム 内で、スタンドアロン WebSphere アプリケーションサーバーを作成したり、既存のスタンドアロンアプリケーションサーバーを登録したりできます。

注 – この作業は、root として実行します。

始める前に　スタンドアロンアプリケーションサーバーを作成するには、ユーザーは、当該コンポーネントが入っているフォルダに「Run Component Procedures」アクセス権を持つユーザーグループに属している必要があります。さらに、ユーザーは、当該コンポーネントを配備するホストセットに「Allow on Host Set」アクセス権を持っている必要があります。

手順

1. **WebSphere** セッション変数 **`WS_DEFAULT_USER`** と **`WS_DEFAULT_PASSWORD`** が設定されていることを確認します。

   セッション変数の詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.1 プランとコンポーネントの開発者ガイド』の第 5 章「セッション変数」を参照してください。

2. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**WebSphere 5.1**」をクリックします。

3. 「**WebSphere Application Server for Standalone Systems: Install**」リンクをクリックします。

   プランの「Details」ページが表示されます。

4. 「**Run**」をクリックします。

   プランの「Run」ページが表示されます。

5. 「**Plan Parameters**」領域で、配備する **`StandaloneInstall`** コンポーネントの変数設定を選択します。

   - 当該コンポーネントの変数設定が確立されている場合、メニューから適切な設定を選択します。
   - メニューから設定を選択できない場合は、「**Select From List**」をクリックします。

     「Select Variable Settings From List」ウィンドウが表示されます。

- 新しい変数設定セットを作成するには、「**Create Set**」を選択します。

  次のリストに、`StandaloneInstall` コンポーネントの変数のうち、更新する可能性が高い変数を示します。ほとんどの変数はデフォルト値のままでかまいません。

注 – スタンドアロンアプリケーションサーバーのデフォルトのポート値を変更する場合は、配備マネージャーのポート値と衝突しないように注意してください。

変数セット名	必須。新たに作成する変数セットの名前。
`installPath`	必須。WebSphere 2.0 をインストールする場所。`installPath` のデフォルト値は、前回、WebSphere コンポーネントをインストールしたときに使用したインストールパスです。
`installerHome`	必須。スタンドアロンアプリケーションサーバーのインストーラの場所。

注 – パス名の後に余分な空白を入れないでください。

`name`	必須。スタンドアロンアプリケーションサーバーの仮想ホストの名前。

- ほかのコンポーネントの変数セットを使用するには、「**Import Set**」をクリックします。

  変数セットのインポートについての詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.1 オペレーションとプロビジョニングガイド』の「プランを実行する」を参照してください。

6. 「**Plan Parameters**」領域で、配備する「**`AppInstance`**」コンポーネントの「**`Default`**」変数セットを選択します。

注 – 新しい変数設定セットを作成する場合は、アプリケーションサーバーインスタンス名を変更しないでください。この名前は `server1` である必要があります。それ以外の場合、インストールは失敗します。

---

7. ターゲットホストを選択します。

   スタンドアロンアプリケーションサーバーは、ターゲットホストとして選択したリモートエージェント上にインストールされます。

注 – ターゲットホストは、com.sun.was#InstallTargetsHS ホストセットのメンバーである必要があります。

8. 「**Target Host Set**」チェックボックスを選択解除します。
9. プロビジョニングシステム 内で既存のスタンドアロンアプリケーションサーバーを取得している場合は、「**markOnly Install**」オプションを選択します。
   このオプションを選択すると、既存の WebSphere 2.0 オブジェクトを表すコンポーネントを作成して、そのオブジェクトを プロビジョニングシステム を通じて管理できます。
10. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。
11. 「**Hosts**」ページを表示して、スタンドアロンアプリケーションサーバーとアプリケーションサーバーインスタンスの仮想ホストが作成されていることを確認します。

▼ アプリケーションサーバーインスタンスを作成する

スタンドアロンアプリケーションサーバーを作成すると、自動的に 1 つのアプリケーションサーバーインスタンス server1 が作成されます。この手順は、追加のアプリケーションサーバーインスタンスを作成する必要がある場合に使用します。

この手順を使用すると、プロビジョニングシステム内で、アプリケーションサーバーインスタンスを作成したり、既存のアプリケーションサーバーインスタンスを取得したりできます。

注 – この作業は、root として実行します。

始める前に　アプリケーションサーバーインスタンスを作成するには、まず、スタンドアロンアプリケーションサーバーを作成する必要があります。詳細は、28 ページの「スタンドアロン WebSphere アプリケーションサーバーをインストールする」を参照してください。

手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**WebSphere 5.1**」をクリックします。
2. 「**Application Server Instances: Install**」リンクをクリックします。
   プランの「Details」ページが表示されます。

3. 「**Run**」をクリックします。
   プランの「Run」ページが表示されます。

4. 「**Plan Parameters**」領域で、配備する **`AppInstance`** コンポーネントの変数設定を選択します。
   新しいアプリケーションサーバーインスタンスごとに、一意の名前が必要です。新しいアプリケーションサーバーインスタンスごとに、その名前を示す新しい変数設定セットを作成する必要があります。

   - 当該コンポーネントの変数設定が確立されている場合、メニューから適切な設定を選択します。
   - メニューから設定を選択できない場合は、「**Select From List**」をクリックします。
     「Select Variable Settings From List」ウィンドウが表示されます。
     - 新しい変数設定セットを作成するには、「**Create Set**」を選択します。
       次のリストに、`AppInstance` コンポーネントの変数のうち、更新する可能性が高い変数を示します。`AppInstance` 変数の設定は、主に、スタンドアロンアプリケーションサーバーの変数設定値に依存します。ほとんどの変数はデフォルト値のままでかまいません。

       変数セット名　必須。新たに作成する変数セットの名前。

       `name`　必須。アプリケーションサーバーインスタンスの名前。

     - ほかのコンポーネントの変数セットを使用するには、「**Import Set**」をクリックします。
       変数セットのインポートについての詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.1 オペレーションとプロビジョニングガイド』の「プランを実行する」を参照してください。

5. ターゲットホストを選択します。
   アプリケーションサーバーインスタンスをスタンドアロンアプリケーションサーバーの仮想ホストにインストールします。

6. 「**Target Host Set**」チェックボックスを選択解除します。

7. プロビジョニングシステム 内で既存のスタンドアロンアプリケーションサーバーを取得している場合は、「**`markOnly Install`**」オプションを選択します。
   このオプションを選択すると、既存の WebSphere 2.0 オブジェクトを表すコンポーネントを作成して、そのオブジェクトを プロビジョニングシステム を通じて管理できます。

8. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

9. 「**Hosts**」ページを表示して、新しいアプリケーションサーバーインスタンスの仮想ホストが作成されていることを確認します。

▼ 配備マネージャーをインストールする

複数のスタンドアロンアプリケーションサーバーが含まれる構成では、配備マネージャーを使用すると、これらのスタンドアロンアプリケーションサーバーを管理できます。配備マネージャーは、どのアプリケーションがどのアプリケーションサーバーインスタンスに配備されているかを追跡します。

この手順を使用すると、プロビジョニングシステム 内で、配備マネージャーを作成したり、既存の配備マネージャーを登録したりできます。

注 – この作業は、root として実行します。

手順

1. **WebSphere** セッション変数 **`WS_DEFAULT_USER`** と **`WS_DEFAULT_PASSWORD`** が設定されていることを確認します。

   セッション変数の詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.1 プランとコンポーネントの開発者ガイド』の第 5 章「セッション変数」を参照してください。

2. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**WebSphere 5.1**」をクリックします。

3. 「**Network Deployment Manager: Install**」リンクをクリックします。

   プランの「Details」ページが表示されます。

4. 「**Run**」をクリックします。

   プランの「Run」ページが表示されます。

5. 「**Plan Parameters**」領域で、配備する **`NetworkDeploymentInstall`** コンポーネントの変数設定を選択します。

   - 当該コンポーネントの変数設定が確立されている場合、メニューから適切な設定を選択します。
   - メニューから設定を選択できない場合は、「**Select From List**」をクリックします。

     「Select Variable Settings From List」ウィンドウが表示されます。

     - 新しい変数設定セットを作成するには、「**Create Set**」を選択します。

       `NetworkDeploymentInstall` 変数の設定は、主に、スタンドアロンアプリケーションサーバーの変数設定値に依存します。

       注 – 配備マネージャーのデフォルトのポート値を変更する場合は、スタンドアロンアプリケーションサーバーのポート値と衝突しないように注意してください。

変数セット名	必須。新たに作成する変数セットの名前。
`installPath`	必須。WebSphere 配備マネージャーをインストールする場所。 `installPath` のデフォルト値は `/opt/was51nd` です。
`installerHome`	必須。配備マネージャーのインストーラの場所。 注 – パス名の後に余分な空白を入れないでください。
`name`	必須。配備マネージャーの仮想ホストの名前。
`httpServerPort`	通常の Web アクセスに必須。Web サーバーのポート番号。
`httpsTrnsprtPort`	安全な Web アクセスに必須。安全な Web サーバーのポート番号。
`bootstrap`	必須。ブートストラップのポート。スタンドアロンアプリケーションサーバーと配備マネージャーを同じリモートエージェントにインストールする場合は、このポート番号を変更する必要があります。

- ほかのコンポーネントの変数セットを使用するには、「**Import Set**」をクリックします。

  変数セットのインポートについての詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.1 オペレーションとプロビジョニングガイド』の「プランを実行する」を参照してください。

6. ターゲットホストを選択します。

   配備マネージャーをリモートエージェントにインストールします。

   注 – ターゲットホストは、`com.sun.was#InstallTargetHS` ホストセットのメンバーである必要があります。

7. 「**Target Host Set**」チェックボックスを選択解除します。

8. プロビジョニングシステム 内で既存のスタンドアロンアプリケーションサーバーを取得している場合は、「**`markOnly Install`**」オプションを選択します。

   このオプションを選択すると、既存の WebSphere 2.0 オブジェクトを表すコンポーネントを作成して、そのオブジェクトを プロビジョニングシステム を通じて管理できます。

9. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

10. 「**Hosts**」ページを表示して、新しい配備マネージャーの仮想ホストが作成されていることを確認します。

▼ 配備マネージャーにノードを追加する

どのアプリケーションがどのスタンドアロンアプリケーションサーバーに配備されているかを配備マネージャーが追跡するには、まず、これらのスタンドアロンアプリケーションサーバーを配備マネージャーに追加する必要があります。このようにノードを配備マネージャーに追加するプロセスのことを「統合 (フェデレーション)」と呼びます。

注 – この作業は、root として実行します。

始める前に　ノードを配備マネージャーに追加するには、まず、配備マネージャーをインストールする必要があります。配備マネージャーをインストールする方法については、33 ページの「配備マネージャーをインストールする」を参照してください。

手順

1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**WebSphere 5.1**」をクリックします。

2. 「**Network Deployment Manager: Install**」リンクをクリックします。

   プランの「Details」ページが表示されます。

3. 「**Run**」をクリックします。

   プランの「Run」ページが表示されます。

4. ターゲットホストを選択します。

   統合 (フェデレーション) するスタンドアロンアプリケーションサーバーの仮想ホストを選択します。

5. 「**Target Host Set**」チェックボックスを選択解除します。

6. スタンドアロンアプリケーションサーバーに統合 **(**フェデレーション**)** する配備マネージャーの仮想ホストの名前を入力します。

7. 連携ノードから配備マネージャーにアプリケーションをコピーする場合は、「**`includeApps`**」オプションが「**`true`**」に設定されていることを確認します。

8. 既存の連携スタンドアロンアプリケーションサーバーの表示を作成する場合は、「**`markOnly Install`**」フィールドを選択します。

   このオプションを選択すると、既存の WebSphere 2.0 オブジェクトを表示させて、そのオブジェクトを プロビジョニングシステム を通じて管理できます。

9. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

   連携後、スタンドアロンアプリケーションサーバーの仮想ホストのホストタイプ属性 `cellName` と `dmHost` は、適切な情報で更新されます。

▼ WebSphere クラスタを作成する

プロビジョニングシステムを通じて WebSphere クラスタを作成するときには、クラスタメンバーを格納できる空のコンテナを作成します。クラスタメンバーをクラスタに追加する方法については、37 ページの「クラスタメンバーを追加する」を参照してください。

注 – この作業は、root として実行します。

手順

1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**WebSphere 5.1**」をクリックします。

2. 「**Cluster Management: Create**」リンクをクリックします。

   プランの「Details」ページが表示されます。

3. 「**Run**」をクリックします。

   プランの「Run」ページが表示されます。

4. 「**Plan Parameters**」領域で、配備する **`Cluster`** コンポーネントの変数設定を選択します。

   新しいクラスタごとに一意の名前が必要です。新しいクラスタごとに、その名前を示す新しい変数設定セットを作成する必要があります。

   - 当該コンポーネントの変数設定が確立されている場合、メニューから適切な設定を選択します。
   - メニューから設定を選択できない場合は、「**Select From List**」をクリックします。

     「Select Variable Settings From List」ウィンドウが表示されます。

- 新しい変数設定セットを作成するには、「**Create Set**」を選択します。
  次のリストに、`Cluster` コンポーネントの変数のうち、更新する可能性が高い変数を示します。ほとんどの変数はデフォルト値のままでかまいません。

変数セット名	必須。新たに作成する変数セットの名前。
`name`	必須。クラスタの名前。
`clusterSPSName`	必須。クラスタの仮想ホストの名前。

- ほかのコンポーネントの変数セットを使用するには、「**Import Set**」をクリックします。
  変数セットのインポートについての詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.1 オペレーションとプロビジョニングガイド』の「プランを実行する」を参照してください。

5. ターゲットホストを選択します。
   クラスタを管理する配備マネージャーの仮想ホストを選択します。
6. 「**Target Host Set**」チェックボックスを選択解除します。
7. 既存のクラスタの表示を作成する場合は、「**`markOnly Install`**」オプションを選択します。
   このオプションを選択すると、既存の WebSphere 2.0 オブジェクトを表示させて、そのオブジェクトを プロビジョニングシステム を通じて管理できます。
8. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。
9. 「**Hosts**」ページを表示して、クラスタの仮想ホストが作成されていることを確認します。

▼ クラスタメンバーを追加する

この手順を使用すると、選択したクラスタに新しいクラスタメンバーを作成できます。

注 – この作業は、root として実行します。

手順

1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**WebSphere 5.1**」をクリックします。
2. 「**Cluster Member Management: Join**」リンクをクリックします。
   プランの「Details」ページが表示されます。

3. 「**Run**」をクリックします。
   プランの「Run」ページが表示されます。

4. 「**Plan Parameters**」領域で、配備する **`ClusterMember`** コンポーネントの変数設定を選択します。
   新しいクラスタメンバーごとに一意の名前が必要です。新しいクラスタメンバーごとに、その名前を示す新しい変数設定セットを作成する必要があります。

   - 当該コンポーネントの変数設定が確立されている場合、メニューから適切な設定を選択します。
   - メニューから設定を選択できない場合は、「**Select From List**」をクリックします。
     「Select Variable Settings From List」ウィンドウが表示されます。
     - 新しい変数設定セットを作成するには、「**Create Set**」を選択します。
       次のリストに、`ClusterMember` コンポーネントの変数のうち、更新する可能性が高い変数を示します。ほとんどの変数はデフォルト値のままでかまいません。

変数セット名	必須。新たに作成する変数セットの名前。
`name`	必須。クラスタメンバーの名前。
`cmemberSPSName`	必須。クラスタメンバーの仮想ホストの名前。

   - ほかのコンポーネントの変数セットを使用するには、「**Import Set**」をクリックします。
     変数セットのインポートについての詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.1 オペレーションとプロビジョニングガイド』の「プランを実行する」を参照してください。

5. ターゲットホストを選択します。
   クラスタメンバーを追加するクラスタの仮想ホストを選択します。

6. 「**Target Host Set**」チェックボックスを選択解除します。

7. 既存のクラスタメンバーを表すコンポーネントを作成している場合は、「**`markOnly Install`**」オプションを選択します。
   このオプションを選択すると、既存の WebSphere 2.0 オブジェクトを表示させて、そのオブジェクトを プロビジョニングシステム を通じて管理できます。

8. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

9. 「**WebSphere 5.1 Common Tasks**」ページの「**View Cluster Members**」リンクをクリックして、クラスタメンバーが作成されていることを確認します。

WebSphere 2.0 環境の構成

WebSphere 2.0 プラグインを使用すると、WebSphere 2.0 環境の様々な側面を構成するコンポーネントを作成できます。この節では、次の作業について説明します。

- 39 ページの「JDBC Provider コンポーネントを作成する」
- 40 ページの「JDBC Provider コンポーネントをインストールする」
- 41 ページの「データソースコンポーネントを作成する」
- 42 ページの「データソースコンポーネントをインストールする」
- 43 ページの「JVM コンポーネントを構成する」
- 43 ページの「JVM コンポーネントをインストールする」

▼ JDBC Provider コンポーネントを作成する

JDBC プロバイダコンポーネントを作成して、インストールします。40 ページの「JDBC Provider コンポーネントをインストールする」を参照してください。

手順

1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**WebSphere 5.1**」をクリックします。
2. 「**JDBC Provider: Create**」リンクをクリックします。
   コンポーネントの「Edit」ページが表示されます。
3. 新しい **JDBC Provider** のコンポーネント名を入力します。
4. **(**省略可能**) JDBC Provider** のラベルと説明を入力します。
5. コンポーネントの変数の値を変更して、「**Check In**」をクリックします。
   次のリストに、コンポーネントの変数のうち、更新する必要がある変数を示します。ほとんどの変数はデフォルト値のままでかまいません。

`providerName`	必須。作成する JDBC Provider の名前。
`implementationClassName`	必須。JDBC ドライバ実装の Java クラス名。
`dbClasspath`	必須。リソースプロバイダクラスの場所を形成するパスのリストまたは JAR ファイル名。

6. デフォルトのフォルダを使用しない場合、「**Change Folder**」リンクをクリックして、**Data Source** コンポーネントを格納するフォルダを選択します。
   「Change Folder」ウィンドウでフォルダを選択して、「Change to Selected Folder」をクリックします。

注 – プラグインが所有するフォルダには、新しいコンポーネントを作成できません。

7. 「**Continue to Check In**」をクリックします。
   「Components」ページが表示されます。

▼ JDBC Provider コンポーネントをインストールする

始める前に　インストールする JDBC Provider コンポーネントは、プロビジョニングシステム内に存在する必要があります。39 ページの「JDBC Provider コンポーネントを作成する」を参照してください。

手順

1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**WebSphere 5.1**」をクリックします。
2. 「**JDBC Provider: Create**」リンクをクリックします。
   コンポーネントの「Edit」ページが表示されます。
3. コンポーネントを探すとき、必要であれば、ルートフォルダに移動して、「**Show Flat View**」オプションを選択します。
   プロビジョニングシステム で登録されているすべての JDBC Provider コンポーネントが「Component」テーブルに表示されます。
4. インストールする **JDBC Provider** コンポーネントの行で、「**Details**」をクリックします。
   コンポーネントの「Details」ページが表示されます。
5. 「**Component Procedures**」テーブルで、「**Default: Install**」プロシージャーを選択して、「**Run**」をクリックします。
   プランの「Run」ページが表示されます。
6. 変数セットを選択します。
7. ターゲットホストを選択します。

   次のいずれか 1 つのホストにデータソースコンポーネントを割り当てます。

   - スタンドアロンアプリケーションサーバーの仮想ホスト
   - 配備マネージャーの仮想ホスト
   - クラスタメンバーの仮想ホスト
   - アプリケーションサーバーインスタンスの仮想ホスト
8. 「**Target Host Set**」チェックボックスを選択解除します。

9. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

▼ データソースコンポーネントを作成する

データソースコンポーネントを作成して、インストールします。42 ページの「データソースコンポーネントをインストールする」を参照してください。

始める前に　データソースコンポーネントを作成するには、まず、JDBC プロバイダコンポーネントを作成してインストールする必要があります。39 ページの「JDBC Provider コンポーネントを作成する」を参照してください。

手順

1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**WebSphere 5.1**」をクリックします。
2. 「**Data Source: Create**」リンクをクリックします。
   コンポーネントの「Edit」ページが表示されます。
3. 新しいデータソースのコンポーネント名を入力します。
4. **(省略可能)** データソースのラベルと説明を入力します。
5. 必要であれば、コンポーネントの変数の値を変更して、「**Check In**」をクリックします。
   次のリストに、コンポーネントの変数のうち、更新する必要がある変数を示します。ほとんどの変数はデフォルト値のままでかまいません。

`jdbcProvider`	必須。Data Source を作成する JDBC プロバイダの名前。
`jndiName`	必須。データソースの JNDI 名。
`dsHelperClassName`	必須。特定のデータベース機能を実行するのに使用するデータストアヘルパーの名前。
`authDataAlias`	必須。実行時データベース認証に使用する別名。
`dbName`	必須。データベース名。
`url`	必須。Data Source が接続を取得するデータベースを示す URL。

6. 「**Change Folder**」リンクをクリックして、**Data Source** コンポーネントを格納するフォルダを変更します。
   「Change Folder」ウィンドウでフォルダを選択して、「Change to Selected Folder」をクリックします。

注 – プラグインが所有するフォルダには、新しいコンポーネントを作成できません。

7. 「**Continue to Check In**」をクリックします。
   「Components」ページが表示されます。

▼ データソースコンポーネントをインストールする

始める前に　インストールする Data Source コンポーネントは、プロビジョニングシステム内に存在する必要があります。42 ページの「データソースコンポーネントをインストールする」を参照してください。

手順

1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**WebSphere 5.1**」をクリックします。
2. 「**Data Source: Create**」リンクをクリックします。
   コンポーネントの「Edit」ページが表示されます。
3. コンポーネントを探すとき、必要であれば、ルートフォルダに移動して、「**Show Flat View**」オプションを選択します。
   プロビジョニングシステム 内で登録されているすべてのデータソースコンポーネントが「Component」テーブルに表示されます。
4. インストールする **Data Source** コンポーネントの行で、「**Details**」をクリックします。
   コンポーネントの「Details」ページが表示されます。
5. 「**Component Procedures**」テーブルで、「**Default: Install**」プロシージャーを選択して、「**Run**」をクリックします。
   プランの「Run」ページが表示されます。
6. 変数セットを選択します。
7. ターゲットホストを選択します。

   次のいずれか 1 つのホストにデータソースコンポーネントを割り当てます。

   - スタンドアロンアプリケーションサーバーの仮想ホスト
   - 配備マネージャーの仮想ホスト
   - クラスタメンバーの仮想ホスト
   - アプリケーションサーバーインスタンスの仮想ホスト

8. 「**Target Host Set**」チェックボックスを選択解除します。

9. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

▼ JVM コンポーネントを構成する

手順

1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**WebSphere 5.1**」をクリックします。
2. 「**JVM: Configure**」リンクをクリックします。
   コンポーネントの「Edit」ページが表示されます。
3. 新しい **JVM** コンポーネント名を入力します。
4. **(**省略可能**) JVM** のラベルと説明を入力します。
5. コンポーネントの変数の値を変更して、「**Check In**」をクリックします。
   次のリストに、コンポーネントの変数のうち、更新できる変数を示します。ほとんどの変数はデフォルト値のままでかまいません。

   `initHeapSize`　必須。初期ヒープサイズ。

   `maxHeapSize`　必須。最大ヒープサイズ。
6. デフォルトのフォルダを使用しない場合、「**Change Folder**」リンクをクリックして、**Data Source** コンポーネントを格納するフォルダを選択します。
   「Change Folder」ウィンドウでフォルダを選択して、「Change to Selected Folder」をクリックします。

   注 **–** プラグインが所有するフォルダには、新しいコンポーネントを作成できません。

   ---
7. 「**Continue to Check In**」をクリックします。
   「Components」ページが表示されます。

▼ JVM コンポーネントをインストールする

始める前に　インストールする JVM コンポーネントは、プロビジョニングシステム内に存在する必要があります。43 ページの「JVM コンポーネントを構成する」を参照してください。

手順

1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**WebSphere 5.1**」をクリックします。
2. 「**JVM: Configure**」リンクをクリックします。
   コンポーネントの「Edit」ページが表示されます。
3. コンポーネントを探すとき、必要であれば、ルートフォルダに移動して、「**Show Flat View**」オプションを選択します。
   プロビジョニングシステム内で登録されているすべての JVM コンポーネントが「Component」テーブルに表示されます。
4. インストールする **JVM** コンポーネントの行で、「**Details**」をクリックします。
   コンポーネントの「Details」ページが表示されます。
5. 「**Component Procedures**」テーブルで、「**Default: Install**」プロシージャーを選択して、「**Run**」をクリックします。
   プランの「Run」ページが表示されます。
6. 変数セットを選択します。
7. ターゲットホストを選択します。
   ターゲットホストは、アプリケーションサーバーまたはクラスタメンバーのどちらかです。
8. 「**Target Host Set**」チェックボックスを選択解除します。
9. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

WebSphere 2.0 インフラストラクチャーコンポーネントの管理

プロビジョニングシステム を使用すると、WebSphere 2.0 インフラストラクチャーコンポーネントをインストールするだけではなく、これらのコンポーネントを起動、停止、およびアンインストールできます。この節では、次の作業について説明します。

- 45 ページの「スタンドアロンシステムのアプリケーションサーバーを起動または停止する」
- 45 ページの「スタンドアロンシステムのアプリケーションサーバーをアンインストールする」
- 46 ページの「アプリケーションサーバーインスタンスを起動または停止する」
- 47 ページの「アプリケーションサーバーインスタンスをアンインストールする」
- 47 ページの「配備マネージャーを起動または停止する」

- 48 ページの「配備マネージャーをアンインストールする」
- 48 ページの「クラスタを起動または停止する」
- 49 ページの「クラスタをアンインストールする」
- 49 ページの「クラスタメンバーを削除する」

▼ スタンドアロンシステムのアプリケーションサーバーを起動または停止する

手順

1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**WebSphere 5.1**」をクリックします。
2. 「**WebSphere Application Server for Standalone Systems: Install**」リンクをクリックします。
   コンポーネントの「Details」ページが表示されます。
3. 「**Component Procedures**」テーブルで、「**startServer**」または「**stopServer**」プロシージャーを選択して、「**Run**」をクリックします。
   プランの「Run」ページに、スタンドアロンアプリケーションサーバーがインストールされているホストが表示されます。
4. 起動または停止するホストを選択します。
   現在のインストールリストから、ホストとそのインストールパスを選択します。
5. 「**Run Selected Installations**」をクリックします。
6. プランの詳細が間違っていないことを確認して、「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

▼ スタンドアロンシステムのアプリケーションサーバーをアンインストールする

手順

1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**WebSphere 5.1**」をクリックします。
2. 「**WebSphere Application Server for Standalone Systems: Install**」リンクをクリックします。
   プランの「Details」ページが表示されます。

3. 「**Run**」をクリックします。
   プランの「Run」ページに、スタンドアロンアプリケーションサーバーがインストールされているリモートエージェントが表示されます。

4. ターゲットホストを選択します。
   スタンドアロンアプリケーションサーバーがインストールされているリモートエージェントを選択します。

5. 「**Target Host Set**」チェックボックスを選択解除します。

6. アンインストールするアプリケーションサーバーのバージョンを指定するには、アプリケーションサーバーのインストールパスを入力します。
   この値を省略した場合、前回インストールしたコンポーネントが (パスに関係なく) 使用されます。コンポーネントが解決される前に、この値はユニバーサル形式に変換されます。この属性は単純な代入変数であると見なすことができます。

7. スタンドアロンアプリケーションサーバーをプロビジョニングシステムから削除し、そのアプリケーションサーバーを **WebSphere** 環境で実行し続ける場合、「**`markOnly`**」オプションを選択します。

8. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

▼ アプリケーションサーバーインスタンスを起動または停止する

手順 1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**WebSphere 5.1**」をクリックします。

2. 「**Application Server Instances: Install**」リンクをクリックします。
   コンポーネントの「Details」ページが表示されます。

3. 「**Component Procedures**」テーブルで、「**startAppInstance**」または「**stopAppInstance**」プロシージャーを選択して、「**Run**」をクリックします。
   プランの「Run」ページが表示されます。

4. アプリケーションサーバーインスタンスがインストールされているスタンドアロンアプリケーションサーバーの仮想ホストを選択します。

5. 「**Run Selected Installations**」をクリックします。

6. プランの詳細が間違っていないことを確認して、「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

▼ アプリケーションサーバーインスタンスをアンインストールする

手順

1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**WebSphere 5.1**」をクリックします。
2. 「**Application Server Instances: Install**」リンクをクリックします。
   プランの「Details」ページが表示されます。
3. 「**Run**」をクリックします。
   プランの「Run」ページが表示されます。
4. ターゲットホストを選択します。
   アンインストールするスタンドアロンアプリケーションサーバーの仮想ホストを選択します。
5. 「**Target Host Set**」チェックボックスを選択解除します。
6. アンインストールするアプリケーションインスタンスのインストールパスを入力します。
   この値を省略した場合、前回インストールしたコンポーネントが (パスに関係なく) 使用されます。コンポーネントが解決される前に、この値はユニバーサル形式に変換されます。この属性は単純な代入変数であると見なすことができます。
7. アプリケーションサーバーインスタンスをプロビジョニングシステムから削除し、そのアプリケーションサーバーインスタンスを **WebSphere** 環境で実行し続ける場合、「**`markOnly`**」オプションを選択します。
8. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

▼ 配備マネージャーを起動または停止する

手順

1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**WebSphere 5.1**」をクリックします。
2. 「**Network Deployment Manager: Install**」リンクをクリックします。
   コンポーネントの「Details」ページが表示されます。
3. 「**Component Procedures**」テーブルで、「**startServer**」または「**stopServer**」プロシージャーを選択して、「**Run**」をクリックします。
   プランの「Run」ページが表示されます。
4. 配備マネージャーをインストールする仮想ホストを選択します。

5. 「**Run Selected Installations**」をクリックします。

6. プランの詳細が間違っていないことを確認して、「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

▼ 配備マネージャーをアンインストールする

手順 1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**WebSphere 5.1**」をクリックします。

2. 「**Network Deployment Manager: Install**」リンクをクリックします。
プランの「Details」ページが表示されます。

3. 「**Run**」をクリックします。
プランの「Run」ページが表示されます。

4. 配備マネージャーをインストールするリモートエージェントを選択します。

5. アンインストールする配備マネージャーのインストールパスを入力します。
この値を省略した場合、前回インストールしたコンポーネントが (パスに関係なく) 使用されます。コンポーネントが解決される前に、この値はユニバーサル形式に変換されます。この属性は単純な代入変数であると見なすことができます。

6. 配備マネージャーをプロビジョニングシステムから削除し、その配備マネージャーを **WebSphere** 環境で実行し続ける場合、「**`markOnly`**」オプションを選択します。

7. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

▼ クラスタを起動または停止する

手順 1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**WebSphere 5.1**」をクリックします。

2. 「**Cluster Management: Create**」リンクをクリックします。
コンポーネントの「Details」ページが表示されます。

3. 「**Component Procedures**」テーブルで、「**startCluster**」または「**stopCluster**」プロシージャーを選択して、「**Run**」をクリックします。
プランの「Run」ページが表示されます。

4. 起動または停止するクラスタを選択します。
   現在のインストールリストから、配備マネージャーとクラスタ名を選択します。
5. 「**Run Selected Installations**」をクリックします。
6. プランの詳細が間違っていないことを確認して、「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

▼ クラスタをアンインストールする

手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**WebSphere 5.1**」をクリックします。
2. 「**Cluster Management: Create**」リンクをクリックします。
   プランの「Details」ページが表示されます。
3. 「**Run**」をクリックします。
   プランの「Run」ページが表示されます。
4. ターゲットホストを選択します。
   配備マネージャーの仮想ホストを選択します。
5. 「**Target Host Set**」チェックボックスを選択解除します。
6. アンインストールするクラスタのインストールパスを入力します。
   この値を省略した場合、前回インストールしたコンポーネントが (パスに関係なく) 使用されます。コンポーネントが解決される前に、この値はユニバーサル形式に変換されます。この属性は単純な代入変数であると見なすことができます。
7. クラスタをプロビジョニングシステムから削除し、そのクラスタを **WebSphere** 環境で実行し続ける場合、「**`markOnly`** 」オプションを選択します。
8. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

▼ クラスタメンバーを削除する

手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**WebSphere 5.1**」をクリックします。
2. 「**Cluster Member Management: Join**」リンクをクリックします。
   プランの「Details」ページが表示されます。

3. 「**Run**」をクリックします。
   プランの「Run」ページが表示されます。
4. クラスタの仮想ホストをターゲットホストとして選択します。
5. 「**Target Host Set**」チェックボックスを選択解除します。
6. クラスタメンバーをプロビジョニングシステムから削除し、そのクラスタメンバーを **WebSphere** 環境で実行し続ける場合、「**`markOnly`**」オプションを選択します。
7. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

WebSphere 2.0 で作業するときのコマンド行インタフェースの使用法

Sun N1 Service Provisioning System コマンド行インタフェースの使用法

デフォルトでは、プロビジョニングシステムのコマンド行インタフェースは次のディレクトリにあります。
`/opt/SUNWn1sps/N1_Grid_Service_Provisioning_system_5.0/cli/bin/cr_cli`

WebSphere 2.0 プラグインのオブジェクトは `/com/sun/was/5.1` フォルダにあります。

プラグインのコンポーネントの内容は、その他の独自のコンポーネントまたはプランと同様に、必要に応じて変更して使用することが可能です。しかし、コンポーネントまたはプランを変更するには、まず、そのコンポーネントまたはプランを新しいフォルダに保存してから変更する必要があります。プロビジョニングシステムのコマンド行インタフェースの使用法についての詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.1 コマンド行インタフェース(CLI) リファレンスマニュアル』の第 1 章「コマンド行インタフェースの使用」を参照してください。

WebSphere 5.1 の wsadmin スクリプトの使用法

WebSphere 2.0 スクリプト用プログラム wsadmin は Sun N1 Service Provisioning System を通じて実行できます。このスクリプト用プログラムの使用法についての詳細は、IBM WebSphere 5.1 のマニュアルを参照してください。

▼ wsadmin スクリプトを実行する

手順

1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**WebSphere 5.1**」をクリックします。
2. 「**Command Line Interface: Run Command**」リンクをクリックします。
   プランの「Details」ページが表示されます。
3. 「**Run**」をクリックします。
4. ターゲットホストを選択します。
   スタンドアロンアプリケーションサーバーまたは配備マネージャの仮想ホストを選択できます。
5. **wsadmin** スクリプトへの引数を「**Plan Variables**」フィールドに入力します。
6. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

例 4–1 wsadmin スクリプトによるクラスタの作成

この例では、wsadmin スクリプトの入力を示します。

コマンド行を使用してクラスタを作成する場合、次の文字列を「Enter the Arguments to wsadmin Script」フィールドに入力します。

```
-c 'set cell [$AdminConfig getid /Cell:cellname/]'
-c '$AdminConfig create ServerCluster $cell {{name clustername}}'
-c '$AdminConfig save'
```

この例では、*cellname* は既存のセルの名前で、*clustername* は作成するクラスタの名前です。

WebSphere アプリケーションを配備するためのコンポーネントタイプの使用法

WebSphere プラグインには、WebSphere 固有のコンポーネントタイプがいくつか含まれています。これらのコンポーネントタイプを使用すると、最も一般的な WebSphere アプリケーションコンポーネントの多くをすばやくモデル化したり、インストール、アンインストール、エクスポート、およびスナップショットの動作を特定のリソースに自動的に関連付けたりできます。コンポーネントタイプの多くは、このソフトウェアがサーバーやクラスタを作成および管理するときに使用されます。結果として、定期的に使用できるコンポーネントタイプは 1 つしかありません。これについては、次の節を参照してください。

- 52 ページの「エンタープライズアプリケーション (EAR) コンポーネントタイプ」

注 – WebSphere プラグインがインストールできるのは、IBM アセンブルツールを使用してアセンブルした EAR ファイルだけです。これらのファイルには、プラグインが必要とする構成設定が含まれています。

エンタープライズアプリケーション (EAR) コンポーネントタイプ

このコンポーネントタイプは、エンタープライズアプリケーションをモデル化します。このコンポーネントは、エンタープライズアプリケーションアーカイブ (EAR) または EAR の拡張バージョンをパッケージとして格納できます。

エンタープライズアプリケーションのブラウズ

このコンポーネントタイプのエンタープライズアプリケーションを選択するときには、次のブラウザのうちの 1 つを使用できます。

- WebSphere Appserver ブラウザ。このブラウザでは、インストールされているアプリケーションとそれに関連する設定の 1 つを選択できます。Appserver ブラウザは、アプリケーションサーバーにあるエンタープライズアプリケーションのアルファベット順のリストを提供します。このリストからコンポーネント用のエンタープライズアプリケーションを 1 つ選択できます。

- ファイルシステムのブラウザ。コンポーネントを作成するための (設定を含まない) EAR ファイルを選択できます。ファイルシステムのブラウザは、ファイルとディレクトリのリストを提供します。このリストから EAR ファイルを選択できます。これらのファイルをそのまま表示しても、`*.ear` をブラウザに入力してもかまいません。

注 – WebSphere プラグインがインストールできるのは、IBM アセンブルツールを使用してアセンブルした EAR ファイルだけです。これらのファイルには、プラグインが必要とする構成設定が含まれています。

エンタープライスアプリケーションのインストール

エンタープライズアプリケーションコンポーネントをインストールするには、WebSphere アプリケーションサーバーインスタンスまたはクラスタをターゲットホストとして使用する必要があります。インストールプロセスでは、主に、次の 3 つの作業を実行します。

1. EAR ファイルをターゲットホストにインストールします。
2. EAR ファイルを WebSphere Application Server で登録します。

エンタープライズアプリケーションをインストールするには、そのアプリケーションの「Details」ページに移動して、Install コンポーネントプロシージャーを実行します。

注 – これらの変更を有効にするには、アプリケーションをインストールしたあとでアプリケーションサーバーの再起動が必要な場合があります。

エンタープライズアプリケーションのアンインストール

エンタープライズアプリケーションコンポーネントをアンインストールすると、それ以降、そのエンタープライズアプリケーションは仮想ホストをターゲットとしなくなります。エンタープライズアプリケーションがいずれにおいてもターゲットとされない場合、エンタープライズアプリケーションコンポーネントはアプリケーションサーバーから登録解除されます。

エンタープライズアプリケーションをアンインストールするには、そのアプリケーションの「Details」ページに移動して、Uninstall コンポーネントプロシージャーを実行します。

エンタープライズアプリケーションの起動と停止

プロビジョニングシステムにインストールされているエンタープライズアプリケーションは起動および停止できます。

▼ エンタープライズアプリケーションを起動または停止する

手順

1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**WebSphere 5.1**」をクリックします。
2. 「**Enterprise Applications (EAR): View All**」リンクをクリックします。
   「Components」ページが表示されます。
3. 起動または停止するエンタープライズアプリケーションを選択して、「**Details**」をクリックします。
   コンポーネントの「Details」ページが表示されます。
4. 「**Component Procedures**」テーブルで、「**Start**」または「**Stop**」プロシージャーを選択して、「**Run**」をクリックします。
   プランの「Run」ページが表示されます。
5. 起動または停止するエンタープライズアプリケーションをホストするアプリケーションサーバーの仮想ホストを選択します。
6. 「**Run Selected Installations**」をクリックします。
   プランの「Run」ページが表示されます。
7. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

Web Application (WAR) ファイルと Java Archive (JAR) ファイルのインストール

WebSphere は WAR ファイルと JAR ファイルをサポートしません。WAR ファイルまたは JAR ファイルをプロビジョニングシステムを通じてインストールする必要がある場合は、WebSphere Assemble ツールを使用して、このファイルを EAR 形式に変換します。ファイルをエクスポートしたあと、プロビジョニングシステムを使用すると、そのファイルを配備できます。

プラン

WebSphere プラグインは、アプリケーションサーバー、配備マネージャー、およびクラスタのインストールと削除に関連するタスクの多数を、プランの内容に従って実行します。

WebSphere 2.0 プラグインのプランは、`/com/sun/was/5.1` フォルダにあります。

障害追跡

プロビジョニングソフトウェア を通じて WebSphere を管理しているときに問題が発生すると、次のようなメッセージが画面に表示されて、問題が存在することがユーザーに通知されます。

```
Problems encountered during plan run or preflight

The plan (or preflight) "/com/sun/was/5.1/DeleteCluster" finished
with 1 failed host(s). (017034)

Cannot perform operation on component component
/com/sun/was/5.1/Cluster because it was not installed on host sun-1 (017057)
Unable to resolve installed component for component
/com/sun/was/5.1/Cluster. (602021)
```

この例のメッセージは簡単に解読できますが、必ずしもすべてのメッセージがこのように読みやすいわけではありません。特定の問題についての詳細な情報を調べるには、「Run History Details」リンクに従います。最後のエラーブロックまで掘り下げて、`stderr` と `stdout` のエラー状況についての出力を表示します。

WebSphere 2.0 プラグインのアンインストール

▼ WebSphere 2.0 プラグインをアンインストールする

始める前に　プラグインが所有するオブジェクトをプロビジョニングシステムが使用している場合、そのプラグインはアンインストールできません。

プラグインをアンインストールするには、admin ユーザーグループのメンバーである必要があります。

手順

1. プラグインが所有するすべてのオブジェクトが使用されていないことを確認します。

   次のコンポーネントは、インストールされているホストからアンインストールする必要があります。

   - WebSphere アプリケーション
   - WebSphere アプリケーションサーバー
   - 配備マネージャー
   - クラスタ
   - クラスタメンバー

   プラグインが所有するオブジェクトをプロビジョニングシステムが使用している場合、そのプラグインを削除できません。

2. ブラウザインタフェースの「**Application Deployment**」セクションで、「**Plans**」をクリックします。

3. 必要であれば、**/com/sun/was/5.1** フォルダに移動します。

4. 「**UninstallSystemServicesPlan**」を選択して、「**Details**」をクリックします。
   プランの「Details」ページが表示されます。

5. 「**Run**」をクリックします。

6. **com.sun.was#InstallTargetHS** ターゲットホストセットが選択されていることを確認します。

7. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。
   WebSphere システムサービスが削除されます。

8. ブラウザインタフェースの「**Administrative**」セクションで、「**Plug-ins**」をクリックします。

9. アンインストールするプラグインを選択して、「**Details**」をクリックします。
プラグインの「Details」ページが表示されます。

10. 「**Details**」ページの一番下にある「**Delete**」をクリックします。
本当にプラグインを削除するのかを確認されます。

11. 「**Continue to Delete**」をクリックします。
プラグインが削除されたあと、「Plug-in」ページが更新されます。

索引

E

EAR,「エンタープライズアプリケーション」を参照

J

JAR ファイル，19
Java アーカイブ,「JAR ファイル」を参照
Java 仮想マシン,「JVM コンポーネント」を参照
JDBC Provider コンポーネント
　インストール，40-41
　作成，39-40
JVM コンポーネント
　インストール，43-44
　構成，43

W

WebSphere 2.0 プラグイン, アンインストール，56-57

あ

アプリケーションサーバーインスタンス
　アンインストール，47
　起動，46
　作成，31-32
　停止，46
アンインストール
　WebSphere 2.0 プラグイン，56-57
　アプリケーションサーバーインスタンス，47
　エンタープライズアプリケーション，53
　クラスタ，49
　スタンドアロンアプリケーションサーバー，45-46
　配備マネージャー，48

い

インストール
　JDBC Provider コンポーネント，40-41
　JVM コンポーネント，43-44
　エンタープライズアプリケーション，53
　データソースコンポーネント，42-43

え

エンタープライズアプリケーション
　アンインストール，53
　インストール，53
　起動，54
　コンポーネントタイプ，52-54
　停止，54
　ブラウズ，52-53

き
起動
アプリケーションサーバーインスタンス，46
エンタープライズアプリケーション，54
クラスタ，48-49
スタンドアロンアプリケーションサーバー，45
配備マネージャー，47-48

く
クラスタ
アンインストール，49
起動，48-49
作成，36-37
停止，48-49
クラスタノード，「クラスタメンバー」を参照
クラスタメンバー
削除，49-50
追加，37-38

こ
構成, JVM コンポーネント，43
コンポーネントタイプ, エンタープライズアプリケーション，52-54

さ
削除
「アンインストール」を参照
「アンインストール」も参照
クラスタメンバー，49-50
作成
JDBC Provider コンポーネント，39-40
アプリケーションサーバーインスタンス，31-32
クラスタ，36-37
スタンドアロンアプリケーションサーバー，28-31
データソースコンポーネント，41-42
配備マネージャー，33-35

し
使用, プラン，55
障害追跡，55

す
スタンドアロンアプリケーションサーバー
アンインストール，45-46
起動，45
作成，28-31
停止，45

つ
追加
クラスタメンバー，37-38
配備マネージャーへのノードの，35-36

て
停止
アプリケーションサーバーインスタンス，46
エンタープライズアプリケーション，54
クラスタ，48-49
スタンドアロンアプリケーションサーバー，45
配備マネージャー，47-48
データソースコンポーネント
インストール，42-43
作成，41-42

と
統合 (フェデレーション)，「追加」を参照

の
ノード, 配備マネージャーへの追加，35-36

は
配備サーバーの要件，14-15

配備マネージャー
　アンインストール，48
　起動，47-48
　作成，33-35
　停止，47-48

ふ

ブラウズ, エンタープライズアプリケーション，52-53
プラグイン
　インポート，20-22
　内容，13-14
　配備サーバーの要件，14-15
プラグインのインポート，20-22
プラグインファイル
　インポート，20-22
　場所，19
プラン, 使用，55